

## 言葉の力を高めるための学習指導の工夫 ～言葉遊びを取り入れた授業を通して～

糸満市立糸満南小学校教諭 與崎優子

### I 研究の目的

国語科に求められること

言葉は「確かな学力」を形成するための基盤であり、思考力や感受性を支えるものであると中央審議会の経過報告の中で述べている。また、新学習指導要領では、「言葉の力」の育成が主な改善の柱の一つになっており、言語の教育としての立場を一層重視している。

これからの国語科は、各教科の中核にたつて言語活動の充実を目指さなければならない。特に、「言葉を通して的確に理解し論理的に思考し表現する能力」、「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」を継続的に指導することが求められる。さらに、指導内容に系統性をもたせ、螺旋的・反復的にくり返しながら指導する指導の工夫が必要である。

語彙力の弱さ

深く思考することや感受性豊かに表現することは、豊かな語彙が不可欠である。ところが児童の実態は、言語環境に差があることや読書量、生活体験の不足から語彙力が弱く量も少ない。そのため「話すこと・聞くこと」の発表では、発表の仕方がパターン化されて話に深みがなく、自分の思いを適切な言葉で表現し伝えることができていない。教師も、授業で豊かな語彙を獲得させたいと思っはいるが、具体的な語彙の指導が生み出せず語彙に着目した指導が軽く扱われている現状である。

また児童によるアンケートの結果から見てみると（H21年5月78人対象）国語に関心を持っていると答えた児童が79%いる（図1）にも関わらず、教師は「児童は国語が苦手」（図2）と捉えており、その苦手要素は語彙の不足からくるのだと考え、児童の国語に対する意欲を生かしきれていないのではないかと思われる。このことは、国語の学習指導の方法に課題があると考える。

学習指導の工夫

そこで本研究では、言葉の力を高めるために言葉遊びを取り入れた語彙指導を次のように国語科の学習指導の中で行うことが効果的だと考える。まず一つ目は「導入における語彙指導」を行う。学習の導入5分間を「ショート言葉遊び」とし、簡単な言葉遊びや詩の音読を取り入れ語彙の拡充を目指す。二つ目は「語彙の取り立て指導」を行う。45分間の授業を「ロング言葉遊び」とし、単元に関連づけた語彙を取り上げる。また、指導の展開にも工夫を入れながら語彙の量と質を高めるための指導を行う。

このように、言葉遊びを取り入れた学習指導法が、言葉の力を高めるために有効かを児童の変容から検証する。

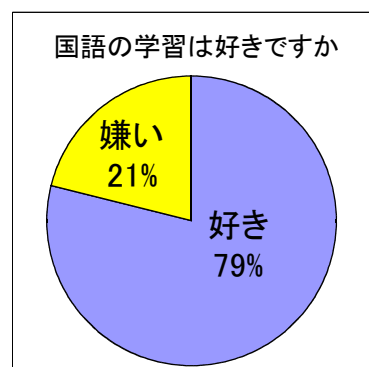


図1. 児童によるアンケート (2年生 78人)

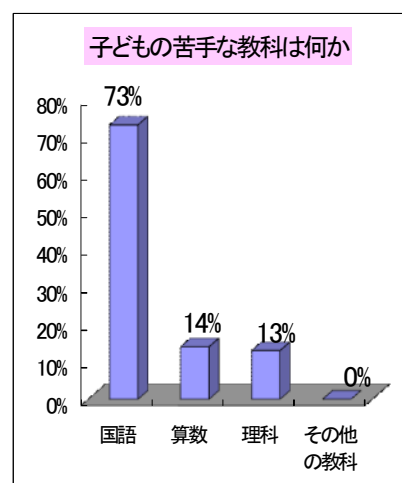


図2. 教師によるアンケート (教師 25人)

## II 研究の目標

言葉の力を高めるために、言葉遊びを取り入れた「導入における語彙指導」と「語彙の取り立て指導」を螺旋的・反復的に実践を行い、授業の工夫・改善を図る。

## III 研究の方法

### 1 導入における語彙指導

国語の学習に入る導入時に5分間の言葉遊び（導入における語彙指導）を取り入れ、語彙の拡充を目指す。

### 2 語彙の取り立て指導

単元の学習内容に関連した語彙を取り上げて、「語彙の取り立て指導」の指導案を作成する。その指導過程の中に言葉遊びを取り入れながら、「知る」→「広げる」→「使う」で展開し語彙拡充から活用までをねらうこととする。授業実践は、一つの教材を2学級で実践する。1回目の授業の内容を改善し、2回目の授業実践に生かしながら授業の工夫・改善を図る。

### 3 学習指導案を作成し授業実践

「言葉遊び」を取り入れて授業実践を繰り返し行い、児童の変容から有効性を検証する。

## IV 研究の内容

### 1. 言葉の力について

語彙を豊かに

#### (1) 言葉の力（語彙力）とは何か

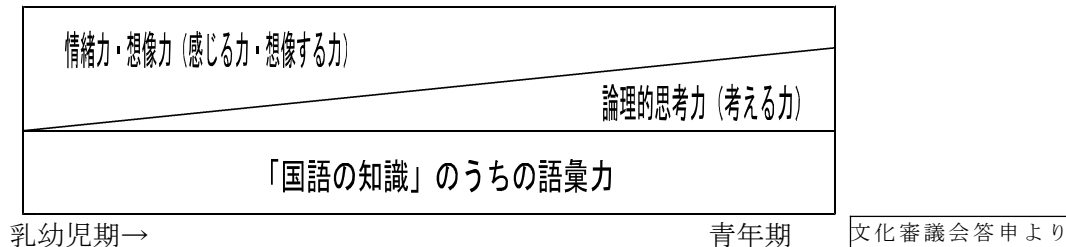
語彙力について規定すると、語彙力は、社会生活を営む上で大切な語句をどれだけ数多く知っているかということである。しかし、百科辞典的に知っているだけでは語彙力が付いたとは言わない。語彙を豊かにという児童への願いは、数量だけではなく、それぞれを生きてはたらく語句として習得させるということである。生きてはたらくとは、第1に、理解・表現活動の場面で数多くの言葉が分かり、使えるということである。第2に、言葉で考え、言葉で想像し、言葉で認識できると言うことである。

脳科学の知見から

#### (2) 発達段階に応じた語彙指導

発達段階に応じた国語教育を考えていくためには、脳科学の知見を参考にすると有効である。語彙力は側頭葉と関係している。側頭葉は、早くから大人と同じような働きをするので、語彙力の教育・指導は子どもの時から大人になるまで直線的に同じ調子で行ってもよいと考えられる。3歳から11・12歳（小学校高学年くらい）までの時期は、語彙力など言葉の知識をつかさどる側頭葉や頭頂葉などの神経細胞は成長を続ける。そこで、小学校では、繰り返し練習により語彙力を増やすことに重点を置くべきだと文化審議会答申の中で述べている。

表1 【発達段階に応じた「国語教育における重点の置き方」のイメージ図】



低・中学年の子ども達は、覚えることにかけては高学年の子ども達も歯が立たないほどの能力を持っている。しかも、「覚えさせられている」という義務感ではなくゲーム感覚で自然に覚えてしまい、低・中学年の頃覚えたものは、生涯残り続けるのである。

そう考えると、数多くの語彙をゲーム感覚で覚えることは、決して無駄ではない。「覚えられる時期にできるだけたくさんの知識を、楽しみながら身につけさせる」ことは、その後の豊かな人生への大きな橋渡しになるのである。

### (3) 言語活動の基礎となる語彙とは

図3は「言葉の力を付けるための構想図」である。国語力を一つの家として念頭に置く。その上部が各領域であり、下部が活動を支えるための知識・技能ということになる。上部の領域の能力は、下部の土台を支えとして高められ、豊かにもなっていくものである。下部の土台の中には、語彙や文型があり、接続表現等までが含まれる。接続表現は、何かを主張するときの根拠を述べる際に必要であり、理科や算数にも応用できる。新しい学習指導要領国語は、この土台となる部分の習得の必要性を強調している。言語活動の基礎となる知識・語彙の習得は重要である。

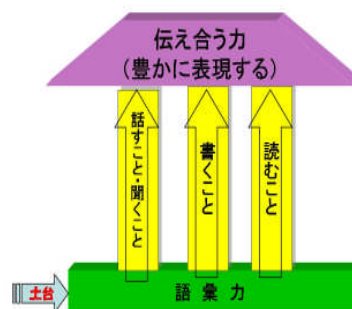


図3 言葉の力の構想図

土台となる語彙力

## 2 言葉遊びを取り入れた学習指導の工夫

### (1) 言葉遊びとは

言葉遊びは、単なるゲームのみではない。例えば、教室に花が生けてあっても興味のない子は気づかない。それと同じで教科書が開いてあるからといって、子どもたちは文章を読んでいるとは限らない。言葉遊びは、言葉の不思議さ、言葉を学習することの楽しさ、つまり、言葉の本質に触れさせる国語科の学習である。言葉に興味や関心を持った子は、言葉を見つめ、言葉と積極的に関わり続けていくであろう。言葉遊びを取り入れた授業は、言葉への興味や関心を持たせ、意欲付けをする学習である。

### (2) 学習の導入時における語彙指導（ショート言葉遊び）

語彙力は一朝一夕に育つものではない。特に音声・言語事項などに関しては、繰り返しの指導が必要となる。そこで、国語の学習の導入5分間を言葉遊びタイムとして設定する。1週間に2日は、名詞・動詞・形容詞などの言葉を集め、語彙の拡充を目指す。また週初めには詩の音読の日とし、言葉の表現や響きの良さにふれる。また、週末の日を漢字の日とし、漢字習得に関わることは遊びやテストを実施し漢字力を高める。このように言葉遊びを螺旋的に繰り返し指導する。

### (3) 単元的展開による語彙の取り立て指導（ロング言葉遊び）

教科書には語彙の拡充を図るために各学年6～7カ所小教材が設けられているが、わずかに1、2時間の学習で定着することは難しい。そこで、1単元に特設授業として45分間の言葉遊びを取り入れた取り立て指導を行い、語彙の定着を図る。取り扱う語彙は、指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ. 言葉の特徴やきまりに関する事項」「ウ. 文字に関する事項」から取り上げる。また、単元の内容理解をより効果的にするために、単元の学習内容に関連した重要語句や重要表現を中心にとりあげる。重要語句とは、読解上注意する語句やキーワードとなる語句で、重要表現とは、その文章の特徴的な表現であったり、表現の違いで意味が変わるなど読解上知っておくべき表現のことである。

#### ① 語彙指導の展開

これまで、授業で豊かな語彙を獲得させたいと思っはいるが、新出語彙の機械的な意味調べや、ニュアンスの違いを發表することのみにとどまっていることが多い。知っていても、どんな場面で使ってよいのか分からないのである。このように考えると、語彙の指導は、その言葉の意味を追求するだけでなく、その語彙に慣れ、使われる文脈

国語の特質に関する事項

指導ポイントとキーワード

語彙指導の展開

や状況を知り、使えるようにしていくことが必要とされる。そこで、語彙指導は「知る→広げる→使う」の流れで展開する。「知る」では、新しい語彙に出会い意味を知る。「広げる」では、語彙の拡充を目指す。そこではただ単に語彙の量を増やすのではなく、質にもこだわりたい。また「使う」では、新しく学んだ語彙を文章の中で書いたり読んだりし、生活の場で活用できるようにする。また、子どもにとって「〇〇遊び」は、とても魅力的であり意欲をかき立てる。「〇〇学習」とは対照的である。語彙の学習をゲームを通して関心を持たせ、継続的に行えるような授業を組み立てる。

②言葉遊びを取り入れた学習指導計画

言葉の力を高めるためには、意図的・計画的な指導を行わなければならない。そこで、「導入における語彙指導」の計画を帯単元Ⅰとし、「語彙の取り立て指導」の計画を帯単元Ⅱとして計画を立てる。帯単元Ⅱの計画は、教科書教材のねらいと関連づけて取り入れるようにする。

表2 言葉遊びのカリキュラム表

月	教科書単元 「教名」	領域	新指導要 領重点指 導事項	帯単元Ⅰ (5分間) ショート言葉遊び	帯単元Ⅱ (45分) ロング言葉遊び	取り立て指導 ねらい
4	一. 楽しく声を出して読もう 「野原のシーソー/おが わのはる/たかのこくん くん」	話す・聞 く 読むこと	イー (イ)	【月曜日】 詩の音読 【火曜日】 ことば遊びの日 【木曜日】 漢字の日 【金曜日】 ことば遊びの日  【火・金曜日】 ことば遊びの日 (例) ①体に関するこ とば集め ・体に関する漢 字 ・口ですること ば ・目ですること ば ・耳ですること ば ②自然の中で見 つけた動き ・虹・空・日 ・雪 ③季節に関するこ とば集め (イメージする ことば) ・春・夏・秋 ・冬	①「動きの様子」 わら う・なく	笑う・泣くの動詞を寄 り詳しく伝えるために 擬音語・擬態語を取り 入れた表現を使うこと ができる
5					②「そんな気持ちどう 思う?」	感情を表す形容詞・形 容動詞を知り、短文作 りをするにより、 感情を表現する力を養 う
	・点、丸、かぎをつかお う	伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	イー (オ)		③ことばのひろば「曜 日を表す漢字」	曜日を表す漢字を書き 出し、その漢字を使っ た短文を作ることがで きる
	二. みんなの前で話そう 教えてあげるたから もの	話す・聞 く	イー (ア)		④「ようすをあらわそ う1」	様子を表す言葉 (色・ 形・さわった感じな ど)を集め、文章の中 で使うことができる
	□手紙で知らせよう ・カタカナで書こう ・言葉の広場	書くこと 伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	ウー (ア)		⑤「目・鼻」を使った 慣用句 ⑥道具を表すことば集 め	体の部分を表す言葉を 集め、慣用的な意味を 学習する 道具を表す言葉と用途 を考えて適切に使うこ とができる
6	三. じゅんじよに木をつ けて読もう 「たんぽぽ」	読むこと	イー (キ)	⑦言葉のたしざん	文中の動詞に着目し、 意味を理解し動作化す ることによって内容を 的確に読み取らせる	
	四. ようすや気持ちを想 像しながら読もう 「雨の日のおさんぽ」	読むこと		⑧「言葉のイメージマ ップ」 ⑨「オノマトペ」 雨の 日のおさんぽ	「たんぽぽ」からイメ ージする言葉を集め、 叙述に即して読む意識 付けをする  雨や水に関するオノマ トペを集め、様子を想 像することができる	

(別紙参照)

## V 研究の実際

語彙力を高めるために、「導入における語彙指導」と「語いの取り立て指導」を取り入れた学習指導を行う。「導入における語彙指導」は、学習導入の5分間を利用して行う。内容は主に語い集めをする。「語いの取り立て指導」では、単元のキーワードとなる表現や語いを取り上げて指導し、1日目の取り立て指導の課題を改善し2回目の指導に生かす。

### 1 授業実践計画と結果（語いの取り立て指導）

回	クラス	教材名	ねらい	研究の視点（☆成果 ★改善点）
1	2の2	「～の声・～の音」オノマトペ (1回目)	オノマトペを集め、その語を入れた短文を書くことができる	★「ものの音」より「動物の鳴き声」からイメージさせた方が分かりやすい。図鑑や地図を活用し言葉をイメージさせる。
2	2の3	(2回目)		☆図鑑を活用し、イメージし安いようにした。カタカナで書く言葉の分類ができた。
3	2の2	言葉のマッピング 「たんぼぼ」 (1回目)	「たんぼぼ」からイメージする言葉を集め叙述に即して読む意識づけをする	★グルーピングは個別では難しそうだったので、学級全体で行った。
4	2の3	(2回目)		☆「たんぼぼ博士になろう」の声かけをし、言葉に着目した読み取りができるようにした。キーワードをおさえた。
	3の3 (担任による)	言葉のマッピング 「自然のかくし絵」	「自然のかくし絵」からイメージする言葉を集め、叙述に即して読む意識づけをする	★初めての手法なので課題作りまでもっていくのが難しかった。 ☆単元のとびらにある写真を使って、言葉をイメージしやすいうようにした。
5	2の2	「言葉のたしざん」(1回目)	文中の動詞に着目し、意味を理解し動作化することによって内容を的確に読み取らせる	★練習問題の例題を工夫する必要がある。
6	2の3	(2回目)		☆意味を理解させるために動作かを取り入れた。
7	2の2	「目・鼻・口」を使った慣用的表現 (1回目)	体の部分を表す言葉を集め、慣用的な意味を学習する	☆慣用的表現を絵を見せながら意味を理解させた。
	2の1 (担任による)	(2回目)		★慣用的表現を使ったことがないため短文作りの場面では、時間がかかった。 ☆聞いたことのある表現では、興味を示した。
8	2の2	「たんぼぼ」マッピング (最終時)	読解上注意する語句や表現を理解し、読むことができたか	☆1回目に比べ語彙の数が増えた。「花・わた毛」などの名前が多かったが、長さや成長の糧を表す語彙も出てきた。
9	2の2	「道具を表す言葉」	道具を表す言葉と用途を考えて適切に使うことができる	★道具の名前や用途が分からないものがあった。名前+擬態語+用途を表す動詞を使った短文作りは難しそうだった。 ☆道具の名前と用途を表す動詞をつなげることができた。
10	2の3	「オノマトペ・雨の音を集めよう」(1回目)	雨や水に関するオノマトペを集め、様子を想像することができる	☆挿絵を見せるとすぐに擬音語がでてきた。
11	2の2 本時	(2回目)		★掲示の工夫と発問の工夫が必要。 ☆事柄の様子を効果音で感じ取らせた。 ★目で捕らえさせることが必要。「遊びを通して」をもっと全面に出す。
12	2の2	「言葉のマッピング・雨の日のおさんぼ」	「雨の日のおさんぼ」からイメージする言葉をマッピングし、豊かに読み取る意欲付けをする	☆「たんぼぼ」マッピングより語彙数が多く出た。
13	2の2	「絵の伝言ゲーム」	順序を工夫して分かりやすく話すことができる。また、じゅんじょに気をつけて聞くことができる	☆初めにモデリングを見せたので、学習の内容が把握しやすいようだった。ワークシートに基本の接続語をあらかじめ入れてあったので、順序よく説明できた。 ★説明する絵を複雑に描く子がいたので最初で説明する。

14	2の2	「言葉のマッピング・雨の日のおさんぽ」(2回目)	イメージする言葉をマッピングし、豊かな読みへつなげるようにする	☆マッピングの手法に慣れ、スムーズに取り組むことができた。語彙が増えた。
15	2の2	「漢字でスケッチ」	漢字の学習に興味を持つとともに、奇襲の漢字を進んで使おうとする	☆既習の漢字以外のものも、使おうと意欲的に書いた。 ★筆順や字形の指導はあえて触れなかった。間違えた児童は書写の時間で指導する。

## 2 授業実践の例

<p>オノマトペ (大辞泉)</p> <p>豊かに読み取る力</p>	<p>(1) 教材名    <b>オノマトペ「雨の音をあつめよう」</b></p> <p>(2) 教材について</p> <p>① 児童観 (省略)</p> <p>② 教材観 (言葉遊びと育てられる力)</p> <p>擬声(音)語・擬態語は、幼児語としてもよく使われ、低学年の子どもたちにとっても、よく目にしたり耳にしたりする、なじみ深い言葉である。これらの言葉を探し集めたり、文章の中でより適切に使おうとする意識を持たせたりすることは、子供たちの語感を育て、表現力を高める上で大切である。</p> <p>本教材では、挿絵をヒントに、雨などの自然の音も擬声語・擬音語(オノマトペ)として言葉に表すことに気付き、文章の中で使うことをねらいとしている。自然の様子を五感(目・耳・鼻・手・肩)でとらえて表現するおもしろさにも気付かせたい。</p> <p>また、本教材を通して得た語彙力を生かし、単元「雨の日のおさんぽ」の読み取りが、言葉に着目した読みにつなげるための教材であると考ええる。</p> <p>③ 指導観</p> <p>本教材は、単元「雨の日のおさんぽ」のねらい「場面の様子や人物の気持ちをよむ」が達成できるための取り立て指導である。この「雨の日のおさんぽ」は、雨の日の様子や主人公の気持ちを想像しながら読み取る教材だが、この中に出てくる「どしゃぶり」や「排水溝の落ち葉のダム」「ゴボッ、ゴボッ」など本学級の児童の実態では意味理解が難しい語彙が多く出てくる。そこで、物語の読み取りの前に「雨の音をあつめよう」の取り立て指導を行い、自然のなかにある音や様子を文で表すことができることを学習する。この学習で得た知識が、雨の日が大好きな主人公への共感へとつながり物語を豊かに読み取る力へつなげると考える。</p> <p>(3) 教材の目標</p> <p>身のまわりにある擬声(音)語・擬態語をあつめ、様子の違いに気付いたり独自の表現を見つけたりして、自然の様子を想像することができる。</p> <p>① 観点別目標</p> <p>擬音語・擬態語の言葉に関心を持ち、進んで集めようとしている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【興味・関心・態度】</b></p> <p>自然の様子を擬音語・擬態語を取り入れ想像をすることができる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【読むこと ウ】</b></p> <p>② 評価計画</p>
--	---

学習計画	評価規準 (評価方法)	A 十分満足できる	C 努力を要する児童への手だて
◎自然の様子を表すことばを集め、ことばの響きを楽しむ。 <b>【興味・関心・態度】</b>	・擬音語・擬態語のことばを集めることばできる。 (つぶやき、態度、動作化)	・集めたことばの響きを楽しみ、語彙を広げることができる。	・挿絵や自分の体験を手がかりに、「ポトン」「ポトン」の音を見つ



<p>○擬音語・擬態語を集め、様子の違いを想像することができる。 【読むこと】</p>	<p>・擬音語・擬態語の違いを想像することができる。 (発表、ワークシート)</p>	<p>・擬音語・擬態語によって自然の様子が違うことが分かり、文章の中に取り入れることができる。</p>	<p>けさせる。 ・挿絵を手がかりに様子の違い気づかせ想像させる。</p>
---	--	---	---

③ 手立て・指導ポイント

ア 自然の中にある様子を言葉にして表現することができる。(オノマトペあつめ)

イ 擬音語・擬態語をつかった短文作りができる。

(4) 本時の展開

過程	学習活動	○教師の支援・留意点/発問	○評価 ☆言葉の力
知る	<p>1 音を聞き言葉で表現する。 ○効果音を聞き、音を言葉で表現する。</p> <p>2 1枚の絵を見せ、その絵の水や雨の様子を言葉で表すことを知る。 (ワークシート①)</p> 	<p>○聞き慣れた音だが、言葉で表現できることに気付く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どんな音が聞こえてくるかな。言葉にしてみよう。</p> </div> <p>○絵を見てその様子を表現するオノマトペを考えさせる。</p> <p>○場面の様子が想像しやすいように掲示を工夫する。(一枚ずつめくる。)</p> <p>○すぐに出ない場合は、一つ目を全体で考え「ピチョン」「ポチャン」など、前单元「カタカナで表す言葉」でのことば遊びを思い出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>チナ体 での キヤ ンツテ</p> <p>じ体 っ手 っ鼻 っ目 っ耳 てで でで でで でで でで かん さわ に見 おて</p> </div>	<p>☆音を言葉に表すことができる。</p>
広げる	<p>3 その他の絵を見せ、自然の中にある音を言葉で表現する。 (ワークシート②③)</p> <p>4 他の様子を表すオノマトペを見つける。</p> <p>5 ことば遊びゲームをする。</p>	<p>○絵にあった様子の言葉を見つけたり、独自の表現をさせたりする。</p> <p>○表現の違いは、様子の違いにつながることに気付かせる。</p> <p>○オノマトペの表現の良さに気付かせ、豊かな読みへつなげることに気付かせる。</p> <p>○集めた言葉をつかった、ことば遊びゲームをすることを通して、知識の共有化を図る。</p>	<p>☆様子を表す言葉を見つけることができる。</p> 
使う	<p>6 あつめたオノマトペを使った短文を書く。 (ワークシート④)</p> <p>7 物語「雨の日のおさんぼ」の中から、雨の日の様子が分かる言葉を抜き出すことができる。</p>	<p>○雨の降り方、状況など考え、文脈の中で使い分けることができる。</p> <p>○言葉に着目した読みができるようにする。</p>	<p>☆文脈にあったオノマトペを取り入れることができる。</p> <p>○自然の中にある擬声(音)語・擬態語をあつめ、様子の違いに気づき文章の中で使ったり、独自の表現を見つけたりすることができる。</p>

(5) 評価

自然の中にある擬声（音）語・擬態語をあつめ、様子の違いに気付き文章の中で使ったり、独自の表現を見つけたりすることができたか。

（ワークシート、発言、動作化）

(6) 本時の評価と次時の改善

① 擬音語・擬態語の言葉に着目し、集めることができたか

図4は、「様子を表す擬音語・擬態語に着目することができたか」の自己評価の結果である。1回目の授業では「よくできた」と評価する児童が66%しかいなかった。

そこで、ワークシートの問題を4問から3問に減らし、問題の内容も水に関するものに限定した。そのことによって、何に着目すればよいか分かりやすいのではないかと考えた。また掲示物の表示の仕方を工夫したり、具体物や効果音を聞かせたりして、着目しやすいように工夫した。

その結果、2回目の授業では80%の児童が「よくできた」と評価し、ほとんどの児童が何に着目するか理解できたことが分かる。

② 身のまわりにある擬音語・擬態語を取り入れた短文作りができたか

図5は、「擬音語・擬態語を短文の中で活用することができたか」の結果である。1回目は5文以上書けた児童が23%しかいないが、掲示の仕方の工夫や考える時間を充分取った結果、2回目は76%に増えた。ほとんどの児童が「主語+擬音語・擬態語+動詞」の順で書いていた。

また、表3・4からわかるように事物の様子の違いについても、擬音語・擬態語を使って表現を変えて、書くができた。さらに、短文の中で擬音語・擬態語を取り入れて書くことが、表現豊かに書くことに気づくことができた。

しかし、2文しか書けない児童も3人（12%）おり絶えず言葉にふれさせ指導していく必要がある。

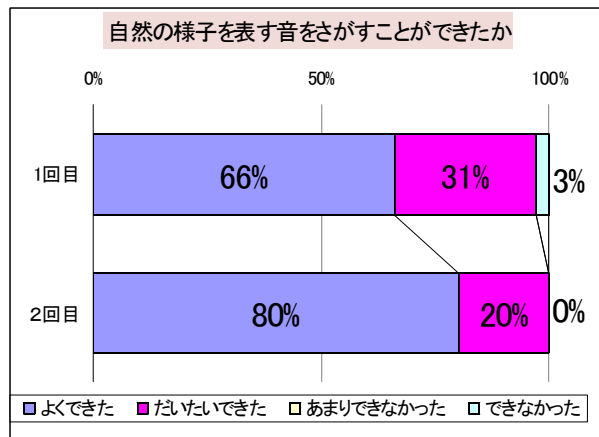


図4. 様子を表す擬音語・擬態語の着目 (25人)

言葉に着目

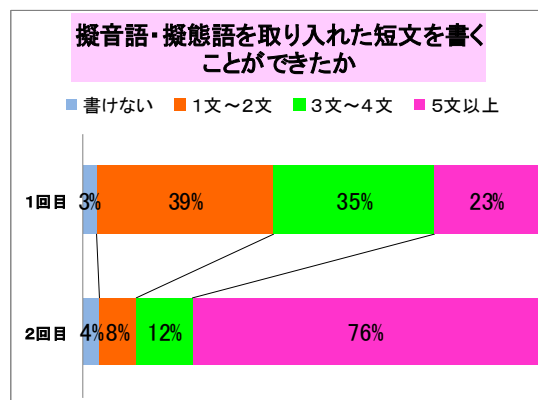


図5. 擬音語・擬態語を活用する

短文作り

表3 擬音語・擬態語を短文の中で活用できたか (25人)

- ・水がドーっと流れる。・水がチョコロチョコ流れる。
- ・風がヒューヒュー鳴る。・いすをキーっと引く。
- ・手のごみをパンパンとはらう。
- ・紙をパサパサにして、クチャクチャにして捨てる。

表4 授業の感想より (25人)

- ・いろいろな音があつて、楽しかった。
- ・大きい石の音と小さい石の音があることがわかった。
- ・文の中に音を入れたときの方が、分かりやすくなる と思った。
- ・音を入れて書くことは大事だと思った。



### ③ 課題と改善点

**課題** 何の様子を擬音語・擬態語で表すのか着目しやすいように、掲示の仕方や問題の出し方を工夫する。また考える時間を充分取ることや、知識の共有化を図るための発表の時間の確保も必要である。

**改善点** 様子がイメージしやすいように効果音を流しながら絵を掲示したり、具体物を持ってきて実際の様子をつかませる。また、短文を互いに発表し合い、言葉の表現にはいろいろあることや、違う表現のおもしろさに気づかせる。

## VI 研究のまとめ

本研究においては、言葉の力を高めるためにことば遊びを取り入れた「導入における語彙指導」と「語彙の取り立て指導」を取り入れた授業の工夫改善を行ってきた。これまでの実践が、言葉の力を高めるために有効であったかを、本学級の児童の変容をワークシートやアンケートから考察する。さらに、他の学級（同学年や1学年）のアンケートの結果も含めて考察する。

### 1 導入における語彙指導（ショートことば遊び）の有効性

#### (1) 本学級における児童の変容

ショートことば遊びの中で、言葉集めをした時の語彙数の変化と短文作りを表したものである。

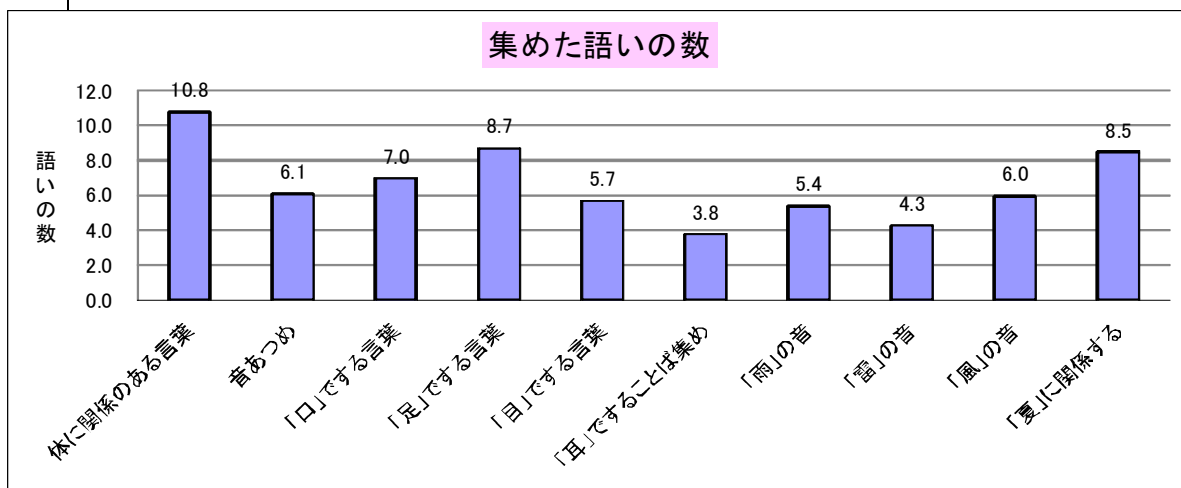


図6 集めた語いの数 (平均/26人)

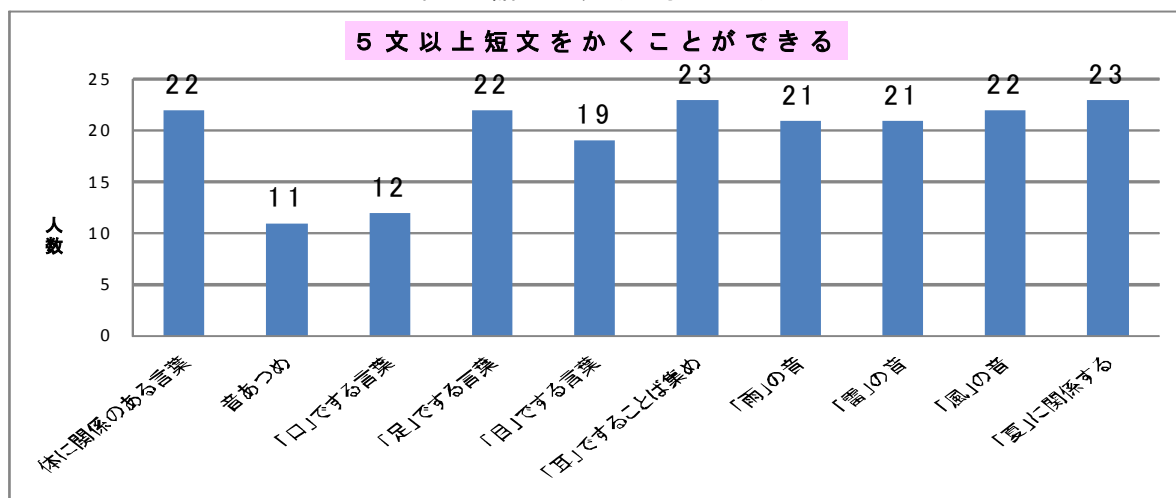


図7 短文の中で活用できた児童数 (26人)

図6は導入における「言葉集め」の語い数である。この図から、問いの種類によって集めにくいものがあるが、徐々に語彙の数が増えていることが分かる。また、図7は「集めた語彙を短文の中で活用できるか」の結果である。これは、5分間という時間制限の中で、あるカテゴリーの言葉を集め、それを5つ以上短文の中に活用できたかをワークシートから考察した。ことば集めを始めた頃は、どのように短文を書けばよいのか分からずとまどう児童がいたが、回を重ねるごとに「語彙の習得→活用（短文作り）」といった一連の流れをパターンとして覚え、短文作りができる児童が80%以上に増えてきた。また、取り立て指導（ロング言葉集め）で扱った語彙が導入の言葉集め（ショート言葉集め）の中にも出るようになり、ロングとショートの言葉遊びの相乗効果が少しずつ現れてきた。

## 2 取り立て指導（ロング言葉遊び）の有効性

### (1) 語彙指導を「ことば遊び」として指導した有効性について

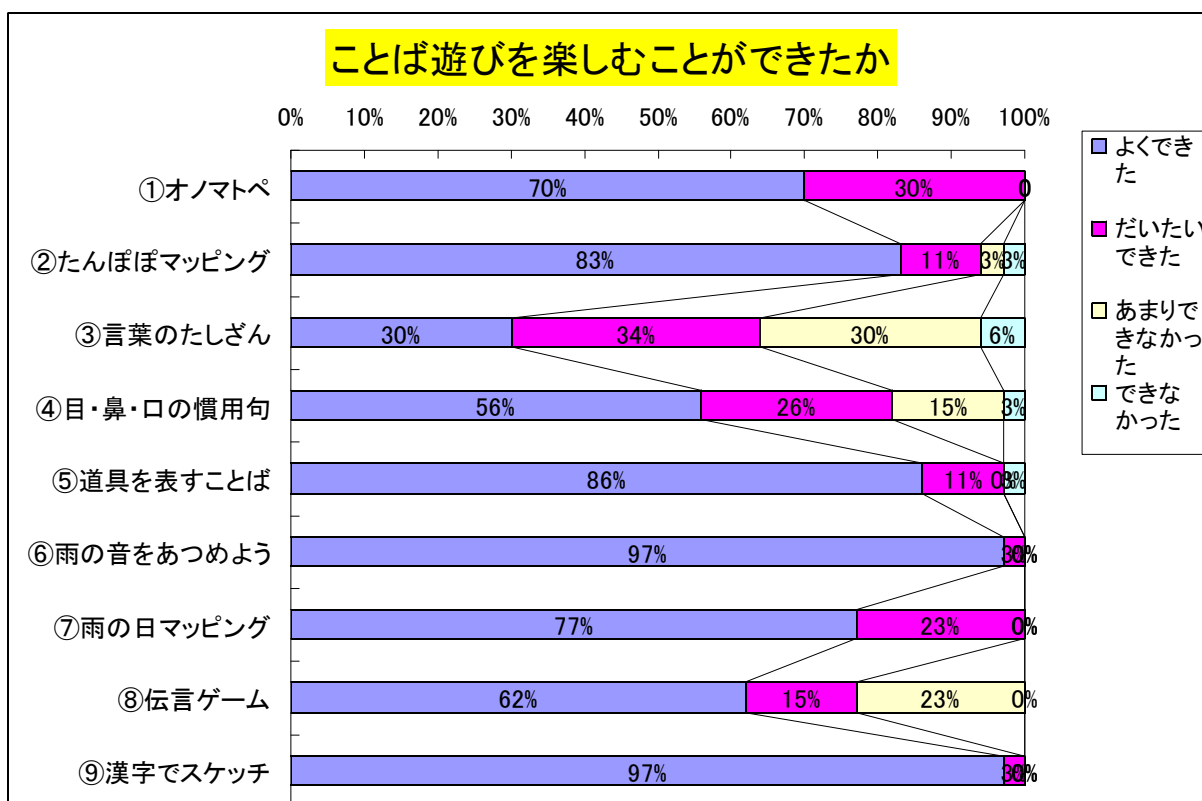


図8 ことば遊びに対する興味・関心

図8は語彙指導を「ことば遊び」として指導したとき、児童の興味・関心はどうであったかの結果である。ほとんどの単元で「よくできた・だいたいできた」と答えた児童が、90%以上であった。この結果から、語彙指導の中に遊び的要素を取り入れたため興味・関心を持って学習できたと考察できる。しかし、教材③「言葉のたしざん」では64%と低い。これは、扱った語彙が複合語であったためである。複合語には、「名詞＋名詞」や「動詞＋動詞」などいろいろあるが、ここでは「動詞＋動詞」の複合動詞のみに限定すれば理解しやすかったと思われる。このように「ことば遊び」を取り入れることにより言葉に対する興味・関心が高まり、さらに同じ教材を2回ずつ実践し改善しながら行ったため、興味・関心が高まったと考えられる。

マッピング

(2) 取り立て指導は、単元の内容理解や語彙の量を高めるのに効果的であったか

図9は、「語いの総数の変化」を表したものである。取り立て指導前の語いの数と取り立て指導を行い単元の学習を終えたときの語い数の変化を表したものである。ここでは、単元名をキーワードにマッピングさせ、マッピングしていく様子や語いの数から検証した。説明文と物語文を分析した結果、既知の語い（1回目）が単元最終回には約2倍の語彙数になっている。これは、取り立て指導の中で学んだ重要表現や語彙が基礎知識となって読むため内容が理解しやすくなり、語彙が増えたと考察する。

また、単元「たんぼぼ」の語彙数に比べ単元「雨の日のおさんぽ」の語彙数は増えている。この事から児童の語彙の量は、取り立て指導の回を重ねるごとに徐々に増えて行くのではないかと考える。さらに、量だけではなく質も変化したことが次の資料から分かる。

資料1は児童の「語いのマッピングの様子」である。ここのマッピングに出てきた語彙を取り上げ、語彙の種類ごとに分類したのが資料2は「語彙の分類表」である。

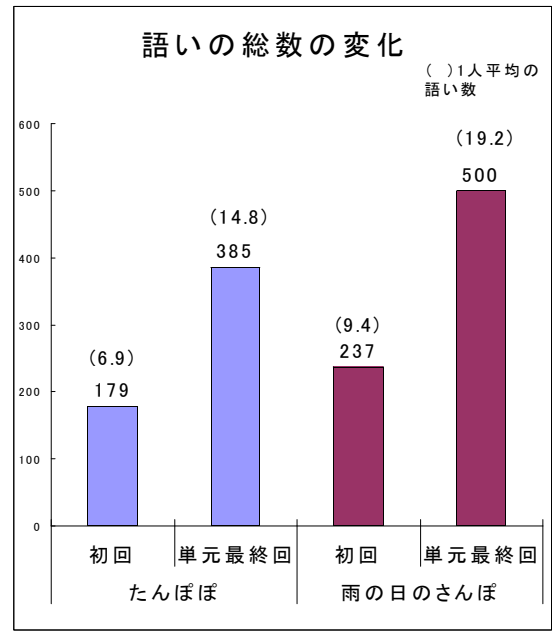
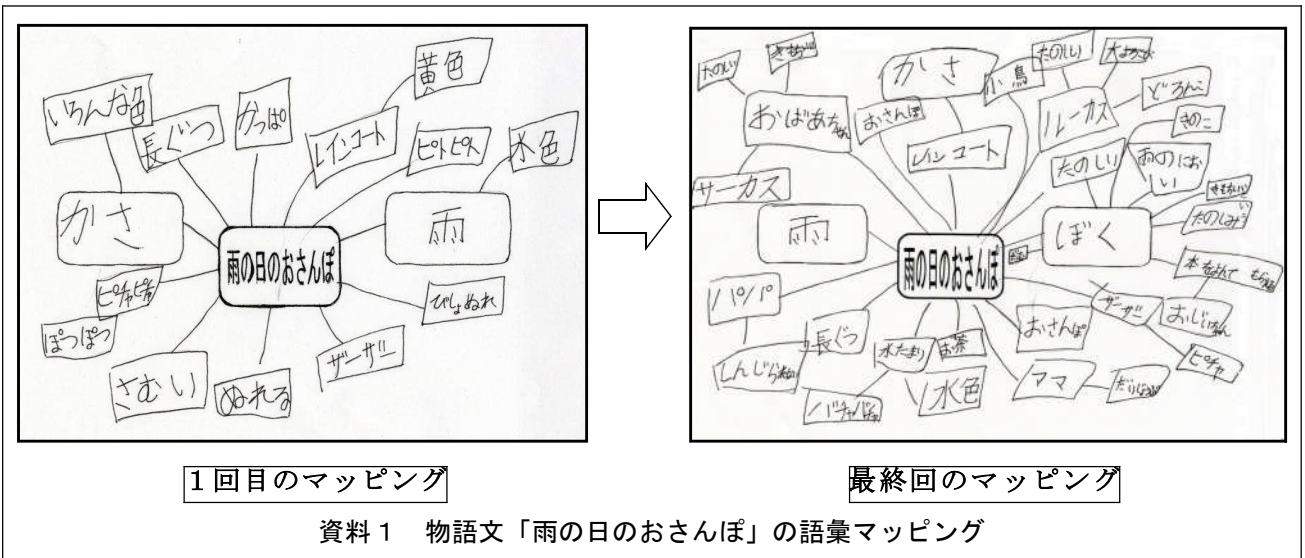


図9 マッピングしたときの語彙の総数  
量だけではなく質も変化したことが次の資料から分かる。



「雨の日のおさんぽマッピング」

語彙の種類	語 彙	
	1回目 (単元1回目)	2回目 (単元最後)
雨の様子	雨	雨
色	水色、黄色、いろんな色	水たまり→水色
雨具	レインコート、かっぱ、長靴、かさ	レインコート→かさ、長靴

オノマトペ	ピトピト、ピチャピチャ ポツポツ、ザーザー	水たまり→バチャバチャ、ザーザー→ピチャッ
感情	寒い	パパ→信じられない、ぼく→たのしい、ママ→大丈夫 おばあちゃん→楽しい、気持ちいい ルーカス→大喜び
五感		雨のいいにおい
登場人物		ぼく、ルーカス、おばあちゃん、パパ、ママ、おじいちゃん
物語に出たもの		きのこ、お茶、水たまり、小鳥、さんぽ
理由		本を読んでもらえるから
比喩		まるでダム、まるでサーカス
語彙の数	15個	34個

#### 資料2 語彙の分類表

1回目のマッピングでは、「雨具の種類」や「擬音語・擬態語」に関する語いが多く、語彙が単発的に書いてあり関連性がない。それに対し、2回目は、「まるでダム」のような比喩表現や「ぼく→本を読んでもらえる→おじいちゃん→楽しみ」のように登場人物と関連づけて、感情を表す語いが出ていた。このことから叙述に即して読み取っていることが分かり、内容理解に効果的であったと考える。

#### 語彙の量

また、マッピングの図から、語いの広がる様子が、関連づけながら、一つの語いから多様な語いへ広がり、語いの質が高まっていく様子が分かる。語いの量も15個から34個と倍以上に増えている。

これらの資料から、45分間の取り立て指導は、語いの量が増えると同時に言葉に着目して読むようになり、単元のねらいを高めるためにも有効であると考えられる。

### 3 語彙力テストの結果

(1) 図10は自作の「言葉のテスト」の結果である。事前（5月）と事後（7月）のテストの平均点から考察する。「導入における語彙指導と「語彙の取り立て指導」を取入れた授業を行う前は、テスト平均79.1点であったが、同じテストを事後行った結果、平均95.8点に上がった。

この結果から、二つの語彙指導を計画的に繰り返し行い、たくさんの語彙にふれさせることは、言葉の力を高めることに有効であったと考える。

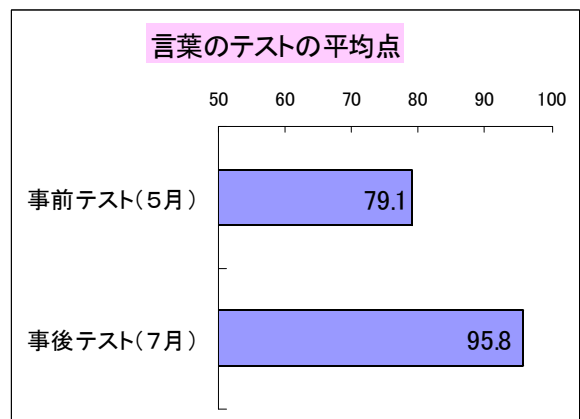


図10 言葉のテストの結果（26人）

### 4 他学級における児童の変容

資料3は、他の学級の担任から見た「他の学級における児童の変容」である。言葉の力を高めるための学習指導として、言葉遊びを取り入れた学習指導は有効であるかを児童の変容から考察する。

<p style="text-align: center;"><b>国語科</b></p>	<p>○㊸のつくことば集め」のようにひらがなの学習後にことば集めをさせた。授業後も、「○のことば見つけた」といいことば集めを楽しんでいた。(1年)</p> <p>○「雨の日のおさんぽ」の単元テストでは、取り立て指導も取り入れて指導した。その結果、単元テストの結果が他の単元より平均点が伸びた。(2年)</p> <p>○ことばに興味を示すようになった。(2年)</p> <p>○詩の音読も学習導入に取り入れたところ、ことばを楽しむようになった。(2年)</p>
<p style="text-align: center;"><b>他の教科や 休み時間</b></p>	<p>○「音さがし」をさせた。「ビュービュー、ヒューン、そよそよ」など風の音にもいろいろあることに気づく。風の強さを感じ取りながら表現していた。音を表すことばが入るだけで風の感じが変わること気づく子がたくさんいた。この学習をきっかけに「耳をすませて」の声かけで「ブーン、ガガガ、ゴー」など音探しをして楽しむ様子が見られた。(1年)</p> <p>○雨の日には、「雨の音を聞いてくる」と言って興味を示すようになった。(2年)</p> <p>○言葉図鑑を自ら進んで読む子が増えてきた。(2年)</p> <p>○楽器遊びでも楽器の音を自分のことばで表したり、他の児童とは違う音で表現しようとしていた。(1年)</p>
<p style="text-align: center;"><b>家庭学習</b></p>	<p>○日記の中で、ことばの表現の中に擬音語・擬態語が入るようになった。(2年)</p> <p>○学習で行ったことば集めを、家庭学習でも書いてくるようになってきた。(2年)</p> <p>○慣用的表現の学習後、習った慣用句を使って短文を書く児童がでてきた。(2年)</p> <p>○がんばりノートに、ことば集めや短文を書いてくるようになり、言葉に興味を持つようになった。(2年)</p> <p>○日記の内容が以前に比べて文章力が高まった児童がいる。(2年)</p> <p>○説明文「たんぽぽ」の学習後、図書室の本「たんぽぽ」を借りて読んだり、実際に観察する子が増えた。(2年)</p>
<p style="text-align: center;"><b>課題</b></p>	<p>○「慣用的表現」を学習したが、活用するまでには至っていない。繰り返し指導が必要。(2年)</p> <p>○言葉への関心を持たせ続けていくような手だてが必要。二学期は日記指導も始まるので、その中でも様子が相手によく伝わるといい良さを感じ取らせていきたい。(1年)</p>

### 資料3 別の学級における児童の変容

この資料は、1年一クラスには言葉遊び(ショート)を、2年生の二クラスには言葉遊び(ショートとロング)を実践してもらい、一ヶ月間で見られた児童の変容をまとめたものである。1年生の1学期は入門期ということで教科書の内容も言語事項が中心である。そのため言葉遊びを取り入れが学習が、取り入れやすかったのではないかと予測する。児童が学習時間外でも言葉に興味を示し、言葉集めをするようになったことは、今後継続的に指導することにより、さらに語彙力が確実に身につくのではないかと予測する。

2年生においても児童の意識の変容が見られた。国語科の中で行った言葉遊びを、家庭学習や他の教科の中でも取り入れるようになってきたり、事物の変化を捉え言葉に変換しようと試みたりすることは、言葉の興味・関心が高まり、言葉の表現を楽しむことに気づいたのではないかと考察する。また、教材の資料として「言葉の図鑑」や「言葉の絵本」などを取り入れたが、児童はこれらの本にも興味を示し、休み時間に自ら読む姿があった。この事から、言葉に触れる環境作りも大事であるということが分かった。

このように日々の授業の中で言葉遊びを取り入れた語彙指導を行えば、語彙力を高めることにつながると考える。

## Ⅶ 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 「導入における語彙指導」は、言葉に対する興味・関心を高め、多くの語彙にふれさせることに有効であることが分かった。(Ⅵ-1)
- (2) 「語彙の取り立て指導」は、学習内容に関連した語彙を取り立てて指導するため、単元の内容理解が深まり思考力や表現力などを培うのに効果的であることが分かった。(Ⅵ-2)
- (3) 言葉遊びを取り入れた二つの語彙指導を行った結果、国語科以外の生活の場でも言葉遊びを楽しむようになったり、活用しようとしたりする態度が見られることから、言葉の力を高めるために有効であることが分かった。(Ⅵ-3)(Ⅵ-4)

### 2 今後の課題

- (1) 言葉遊びの教材開発と改善
- (2) 効果的・継続的に指導するための年間計画の見直し
- (3) 中学年・高学年における語彙の指導計画の作成

### 《主な参考文献》

文化審議会答申	『これからの時代に求められる国語力について』		平成 16 年
文部科学省編	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	平成 20 年
吉永幸司／さざなみ国語教室編	『語い力を育てる指導法のアイデア』	小学館	平成 17 年
瀬川榮志／山本直子編	『言葉のみがく語彙力アップワーク 低・中学年』	明治図書	平成 20 年
	『教育科学 国語教育 2004 7 月号』	明治図書	平成 16 年
青山由紀 監修	『楽しく遊ぶ学ぶ こくごの図鑑』	小学館	